

(様式1)

令和6年度 学校評価結果報告書(特別支援学校用)

(1) 学校教育目標	児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な教育を行い、将来の自立と社会参加を目指して、その基盤となる「生きる力」を育成する。 ア 丈夫で元気な子ども イ 仲良く協力する子ども ウ 自分から進んで取り組み、やり遂げる子ども
------------	--

(2) 現状と課題	(現状)児童生徒の適切な実態把握と評価に基づいた授業を進めるために、ICTの活用を含め特別支援教育の専門性を高める必要がある。コミュニティ・スクールとして地域に貢献する教育活動を展開していく必要がある。 (課題)授業の研究と分析・改善、キャリア教育の推進、地域に信頼される学校づくり、特別支援教育の専門性の向上
-----------	--

(3) 重点目標	1 「考える・分かる・活用できる」の要素がある授業づくりの実践
	2 夢や志の実現に向けたキャリア教育の推進
	3 地域に開かれ、地域に貢献し、信頼される学校づくりの推進
	4 各障がい種の指導の専門性の向上、インクルーシブ教育システム

(4) 結果の公表	・本校職員、保護者、学校運営協議会委員へは配付資料で公表 ・本校ホームページに結果を公表
-----------	---

学校整理番号	特16
学校名	青森県立森田養護学校
対象障害種別	視覚・聴覚・知的・肢体・病弱

自己評価実施日	令和 7年 1月 20日(月)
学校関係者評価実施日	令和 7年 2月 7日(金)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
●学校運営協議会委員(大学准教授1名、地域住民1名、PTA会長1名、障害児者施設長1名、ボランティア団体代表1名、地域学校協働活動推進員1名) ●校長、教頭、事務長、教務主任、小中高等部主任、進路指導部主事 計14名

自 己 評 価				学校関係者評価		(10) 次年度への課題と改善策
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	「考える・分かる・活用できる」の要素がある授業づくりの実践	チームで行う授業改善	・重点課題に位置付け、教員の自己目標に取り入れることで、学級担任同士による授業改善が促進された。保護者評価、教職員自己評価も高評価となった。	A	・児童生徒の特性に応じた授業が展開されていた。校内には学習の成果がたくさん置かれており、情報発信してはどうかと感じた。 ・授業改善に関連し「遊びの指導」や教科学習について学校の考え方を整理してどうかと思う。	・「発達段階に応じた目標設定、達成状況や成果の伝達」については、保護者に対して引き続き丁寧に説明し、情報共有に努める。 ・3年計画の校内研究をまとめ、ICT活用した効果的な指導方法を、教員間で共有できるようにする。
		児童生徒一人一人の実態に応じたICTを効果的に活用した授業実践の推進	・校内研究は「ICT活用推進」「メディアコントロール育成」の2グループで実施し、研究授業・授業研究会を全校で行い、意見交換をして授業改善に役立てた。			
2	夢や志の実現に向けたキャリア教育の推進	小学部、中学部、高等部が連携した各学段段階におけるキャリア教育の充実	・学部ごとの施設見学、進路講演会のほか、学部間連携による将来像を考える学習など進路学習の機会を適切に設定して取り組んだ。コミュニティ・スクールを活用した地域と連携した取組がキャリア育成につながっている。	A	・積極的に見学等に出て行くことで、学校や生徒のことを知ってもらえると思うので、どんどん出かけてほしい。 ・関係機関と共有した情報については、保護者に丁寧に伝えてほしい。また、保護者が進路について知る機会を確保してほしい。	・引き続き、地域と連携した教育活動を展開し、キャリア育成に努める。 ・各学段で実施している進路指導について、特に、中高6年間を見通した一貫性のあるものとしていく。 ・各学段の段階に応じて必要とする進路情報を把握し、保護者との情報共有を丁寧にやっていく。
		保護者・関係機関との情報共有	・綿密な計画の職場実習や事業所見学を実施し、関係機関との連携を深めた。また、高等部卒業生の移行支援会議、その他支援に関するケース会議を実施し、情報共有している。			

3	地域に開かれ、地域に貢献し、信頼される学校づくりの推進	学校運営協議会を活用した地域との積極的な連携・協働の推進と教育課程の編成	・清掃活動や雪かきボランティアなど地域での貢献活動を各学部で実施した。地域やその他県内の外部人材を活用した授業を実施し、教育活動を充実させることができた。	A	・委員や学校ボランティア団体として、授業や行事に参加し、協力できた。これからも続け、先生方の負担軽減に協力したい。	・地域とともにある学校づくりを意識した教育課程を編成し、学校運営協議会の意見を参考に、地域の協力を得ながら、教育活動を展開していく。
		ホームページなどを活用した本校及び特別支援教育に関する積極的な情報発信	・学校ホームページの活用のほか、地域での教育活動をメディアに取り上げてもらうことで本校に関する情報発信を行った。また、地域内で相談支援サポートセンターを定期的に開設し、特別支援教育に関する支援を行った。		・今年度はテレビや新聞で積極的に発信した。緊急メールの訓練も繰り返し行い、浸透させてほしい。また、学校での3校合同会議を実施したのは、地域への発信となった。	・引き続き、個人情報に留意しながら、メディアや学校ホームページを活用した情報発信を行う。また、特別支援教育のセンター的機能を意識し、地域での役割を果たしていく。
4	各障がい種の指導の専門性の向上、インクルーシブ教育システム	知的障がい、肢体不自由、発達障がい等、各障がい種に関する指導の専門性の向上を目指した校内外の研修・校内研究の機会確保	・西北地区特別支援連携協議会や県ICT事業を活用した研修会に、全教員で参加した。教職員自己評価では、自己研鑽に関して課題があるとの意見があった。	A	・時間や費用で制約があると思うが、学ぶ意欲を大切にしてほしい。	・学校や個々にとって必要な研修を考える機会を作り、研修を通して自己研鑽するという意識を高める。
		交流及び共同学習の推進についての保護者への説明と希望への対応	・各学部で学校間交流を実施した。学校運営協議会の意見を取り入れ検討・改善した内容で実施し、より充実した交流となった。居住地校交流は18名の児童生徒が実施し、合理的配慮の下、交流先の学習内容での参加が増えている。		・交流だけでなく、共同学習になるような形にしてほしい。 ・居住地校交流について、小学部に比べ、中学部の希望者が少ないので、広げられるようにしてほしい。	・保護者への周知に努め、積極的な参加を呼びかけるとともに、交流先とより丁寧に授業計画を打合せ、内容の充実を図りたい。
(11) 総括	<p>全保護者による学校評価アンケート（4. そう思う 3. だいたいそう思う 2. あまりそう思わない 1. 思わないの4段階評定）は、回答率96%、評価平均値3.74、全教職員による自己評価アンケートは回答率97%、評価平均値3.73と高評価であった。保護者による学校評価アンケートは、全21項目中、3.60を超える評価が20項目あり、特にその中でも、プライバシー保護、教材・教具の工夫、交流及び共同学習、緊急事態発生時における安全対策、災害時や事故発生時における保護者への速やかな情報の発信について高く評価された。教職員自己評価で昨年度評価が厳しかった授業改善に向けた分析や評価については、チームでの授業改善に取り組んだこともあり評価が向上し、授業の充実が図られたと考えられる。</p> <p>全体を通して、学校運営協議会委員からは、今年度の活動について「目標はほぼ達成されている」という評価をしていただいた。地域とともにある学校づくりの下、教職員が保護者や地域の方々をはじめ外部機関と連携して、内容等を改善しながらを教育活動を展開できた。今後も委員の方々からいただいた課題や提言及び学校評価の結果を次年度の計画に反映させ、さらなる教育活動の充実を目指していきたい。</p>					